

~~1-292~~

1-292

尾上榮三郎



市川五郎



市村家橋

小川一眞製



叙

今の芝居は文明の世間に後れたり若しこの儘に放棄せば遠か
 衰退すべきは論を俟たず故に時事新報は昨年十二月その改良の一
 端として對世間の興行に關する一案を掲げたり論自ら世人の注目を
 引きたるもの、如し手則ちその實行を期して先づ俳優諸子の所見を
 問かんを欲し社友伊坂梅雪子が芝居に精しく且つ俳優間に親交ある
 を以て同子に託するにこの事を以てせり實に十二俳優の改良意見に
 してその言概ね聽くに足れり唯興行者等は舊習に汚染するの久しき
 絶えて改良の意義を解せざるのみ越えて今年三月に至り演伎座の少
 優始めて改良芝居を興行して好評を博し次いで市村本郷新富真砂各
 座及び歌舞伎座の如きも亦終に改良を實行するに至れり改良の氣運
 到來せりと云ふべし蓋し芝居に改良すべきもの一にして足らず脚本



叙

の新作劇場の改築後進の教育門閥の打破等その最も主要なるものなり然れども物緩急先後の別あり若し次序を誤りてその急なるものを後にしてその緩なるものを急にせば未だ會つて可なるを見ず從來幾多の改良策の空しく畫餅に歸したるは是れが爲めなり予は唯今日にありて芝居を文明社會に近接せしめ先づその繁昌を圖りて而る後他の改良に及ぼさんと欲するのみ

明治三十五年九月

寺山星川識

芝居改良

日本の芝居に改良す可きの點は固より少からず年來世間に演劇改良の談ある所以なれども其趣意を聞くに多くは劇の仕組趣向に關するものにして今の芝居を一般の觀覽に便ならしめ廣く娛樂の目的を達するの工風に就ては之を説くものなきが如し否な之を説くものなきに非ずと雖も未だ實際に行はれざるが如し我輩の爰に云ふ芝居改良とは劇の仕組趣向を論ずるに非ず只今の芝居をして一般の觀覽に便にし眞實娛樂の機關たらしめんと欲するのみ抑も芝居は社會娛樂の種類中最も一般の心を惹くに足るものにして文明社會には缺く可らざるの機關なるに今日の有様を見れば只管舊習を墨守して世運の進歩に伴はず一般人の觀覽に便ならざるより次第に社會に遠ざかるの

二
傾向を呈しつゝあるは實際の事實なり若しも此儘にして改良の法を講ぜざるに於ては劇場の衰微を招くと共に社會娛樂の一機關を失ふに至るの掛念なきを得ず改良の止む可らざる所以にして試に我輩の見る所に據り事の容易にして實際に行はれ易き手段より述べんに第一には演劇の時間を短縮す可し 今の演劇時間は八時間の定めにして午前十時もしくは十一時に開場すれば閉場は午後六時乃至七時に至るの常なり即ち殆んど一日を費すものにして悠長なる昔し昔しの江戸時代には芝居見物に一日を消するも差支なかりしことならんなれども文明社會は時は金の世の中にして今後各人の業務は次第に繁忙に赴くとなれば芝居に一日を費すが如きは金持の樂隱居か劇通など稱する一種の好事者に非ざれば望む可らず現に今日に於ても夫れくの常職あるものが其業務を終り家に歸るは午後五六時

の頃にして恰も芝居閉場の時刻なりと云ふ是等の人々が終日の勞を慰する爲め娛樂を取らんとするには是非とも芝居の外に於てせざるを得ず最も一般の心を惹くに足る可き演劇にして斯くの如しとあれば時勢の進歩に隨ひ見物人の次第に減少するは必然の成行にして劇場衰微の本にこそあれば差當り時間を三時間乃至四時間に短縮して夜間興行とするは必要の處置なる可し我輩に於ては全く夜間に限るも差支なしと思ふものなれども既に時間を短縮するときは或は晝夜兩回に興行するも可なり或は又世間には幾幕打通の芝居に非ざれば満足せざる向きもあらんれば是種の見物人の爲めには一週一回ぐらゐる特に八時間を演ずるも可なりとして時間の短縮、夜間の興行は時世の進歩に伴ふの改良にして芝居と社會とを密着せしめ後來永く繁昌を維持するの道なりと知る可し

次は幕間を短くす可し。今の芝居の幕間の長きは驚く可し演劇の時間、八時間の中より幕間の時間を差引けば正味の演劇は五六時にも足らざるとならん實際に舞臺の装置、道具の組替、役者の身支度等に多少の時間を要するは勿論なれども既に演劇の時間を短縮するときは今日の如く幕間の長きは事實に於て許す可らず左れば出来得る限り幕間を短くすると同時に其間は長唄常盤津の類又は西洋音楽等を演じ看客をして退屈せしめざるを期す可し從來幕間の甚だ長きに拘はらず看客に不平の少なきは如何なる次第なるやと云ふに幕間の時間は取りも直さず飲食の時間にしてイザ幕間と爲れば酒を呼び縮を呼び又菓子と呼び牛飲馬食は一時に開始せられ飲むもの食ふもの酔ふもの叫ぶもの満場轟然その亂雑醜態名状す可らず是れと申すも畢竟演劇の時間長くして食事の時刻を其間に挟むが故に自から斯る不體

裁を來したるものなれば時間を短縮して晝興行は午後一二時より夜興行は同六七時より開場すること、すれば看客は場内に於て飲食するの要なきは勿論、幕間を短くして其間に音楽等に餘興を演ずるときは斯る不體裁は自から止むに至らざるを得ず飲食の醜態を止めにして音楽の興味を添ふ幕間を短くするの一事は一舉兩得の効能ある可し。其次は土間の區劃を撤す可し。今の劇場には棧敷、高土間、土間等の區別ありて孰れも五六人を容る可き廣さに仕切り一間に付き何圓の席料を收むるの定めなれば一人にて見物するにも五六人分の席料を拂はざるを得ず若しも然らざるときは一面識もなき他人と一間の中に膝を交へて雜居するの不愉快を忍ばざる可らずと云ふ即ち芝居の見物には少なくとも四五人の徒黨を結ぶの必要ありて一般看客の甚だ

不便を感じる所以なり左れば劇場の繁昌を謀らんとするには斯る不都合なる仕組は是非とも改良せざる可らずとして其工風は如何と云ふに先づ我輩の趣向を云へば今の棧敷は最上等の席として今の儘に存し置き其他は一般に區劃を撤し之を上中下の三等に分ち上等は椅子を据ゑ中下等は始らく座席として一人に付き何圓もしくは何十錢の席料を收むることとす可し或は區劃を撤するときは大勢の家族もしくは連中など稱する多人數聯合の見物には不便ならずやとの掛念もあらんなれども其場合には其人數に相應する座席を一團として前以て約束するときは別に不便はある可らず此仕組とするときは看客は一人にても二人にても隨意に入場し隨意に席を占むるを得て今日の如く一二人にて五六人分の席料を拂ふこともなく甚だ便利にして劇場に取りては見物人を増加するの利益ある可し

又その次は茶屋を廢す可し 彼の芝居付の茶屋なるものは實際に如何なる必要あるや我輩の解せざる所なり或は交通の不便なり江戸の時代に山の手の邊より當時の芝居町なる猿若に行くには路程も容易ならざるのみならず芝居の時間も早朝より夜分に至ることなれば食事休息着換等の爲めに茶屋に立寄るの必要もありたることならんなれども今日は劇場に行くに市内何れの場所よりするも馬車人力の便に依れば一時間を出でず況して演劇の時間を短縮して午後二時もしくは六七時より開くことゝするときは食事休息等の必要なに至る可し今の茶居なるものは如何なる用を爲すやと云ふに客の求に應じて飲食を供すると劇場の出入に送迎を爲すのみなれども實際には場内の席を取るに茶屋に依頼せざるときは好地位を得る能はざるの不便ありて今日の仕組にては芝居の見物は是非とも茶屋に依ら

ざる可らざるの習慣を成し随て茶代心付など看劇費の一半以上は茶屋に支拂ふの奇観を呈するが如き何としても解するを得ず全く無益の長物のみか寧ろ客足を減ずるの不利あるのみなれば芝居の繁昌の爲めには断じて廢せざる可らず之を廢して何等の差支なきは我輩の断じて疑はざる所なり

芝居改良意見

(一) 片岡市藏の改良説

芝居は今後何う云ふ工合に改良すれば尙ほ盛んになるかと云ふお尋ねで御座います私考へを申し上げますと當節は技藝の方は進歩致します二十幾新聞で批評をして下さるだけでも進歩するに違ひないと存じますが今以て少しも改良しないで昔の仕來りの儘なのはお客

様の扱方で御座いませう小屋は大概西洋塗りになつて表に櫓を置いたり太鼓を叩いたりすることは止めましたがお客の扱方は少しも以前と變る事はありませぬお茶屋さん杯は其座の爲めに貴顯の方や又は華族様方がお出でになるのを丸で自分の家でお客と昔からお交際でもして居るかの様に思ひまして家へは誰様がお出でになる杯と自慢を致します又出方などになるとお客を指しまして

今日●は●宜●い●鳥●が●掛●つ●た●

杯と失禮なことを申して丸でボン引か引手茶屋同様に思つて居るのですからお客様も矢張り引手茶屋へでも行つた心持で御散財をなさるので御座います夫れが芝居の場代よりも高くなるのですから御見物も遂ひ乙甲になる勘定で御座いませう夫れから此茶屋出方などはお客様に食物を賣ります商人ならば緞の前掛でも締めて商人氣質に

なつて、旨く安く賣ると云ふ考へを持たなければ成らないのですが、何うもさうは心掛けて居ないやうです、唯今は何うなつて居りますか、昔私が土佐の芝居へ参りましたとき、彼地では芝居の中で一切食物を賣らない習慣がありました、お客様は幕が締ると、皆表へ出て芝居前の食物屋へ行つて物を食べます、夫れから二丁役者の仕度が出来たといふ知らせが這入ると、表方がドン／＼と、と大鼓を叩く、是れを合圖にお客はゾロ／＼と歸つて來ると云ふ始末で、芝居の中では

酒一滴も呑みませぬ

唯椎實だけは食へることになつて居りますから、芝居が打出になると、其殼が山の様に溜ると云ふ工合で御座いました、夫れから又大阪の芝居では別に茶屋へ心付は要らないので、茶屋の手數料は場代の中に籠つて居ります、私は御存知の通り舊弊者で、外國の事情は精しく知りま

せぬから、人様に彼方のお話を聞きました、が、日本では何もかも彼方のやうに改めないでも善からうと思ひます、私の考へでは興行時間を午後の六時から十時位までと致しまして、茶屋から來る人は此處へ傘帽子などを預け、又は馬車人力車自轉車を預けて案内をして貰ひ、案内料は前以て何程と定め、食物は一切賣らない様にしたいので御座います、さうしますと

御見物の方もホンの場代

だけで見られるので、例へば只今は八圓五十錢に敷物代五十錢を入れ、て、九圓の棧敷代になる勘定ですが、若し枱を取拂つて見物場を改良し、丁度チャリネの曲馬のやうな仕掛に椅子を用ゆることにすれば、別に食物を置く席も要りませぬから、一枱四人の割ならば、樂過ぎる位でせう、夫れで場代が一等を二圓、二等を一圓五十錢、三等を一圓として、是れ

に準じて大向ふ杯を四等五等六等と順に直段を安くし、役者の方は晝
の内に稽古をして、年中休場なしに開場することにした方が善からう
と思ひます、若し又連中杯の場合には、誰方が幾人と買切つて仕舞へば
矢張り同じ事だらうと存じます、夫れから私は悴の龜藏市松なども役
者にしてありますが、其う云ふ事になれば僅か四時間位のことですか
ら、其一座の重立つた人達は必ず打出しまで残つて居て、後進者の悪い
所を直し、精々若手を引立つる様に必掛けて貰ひたいものと思ひます、
又是れまでは樂屋に一定の規則と云ふものが御座いませぬ、此社會は
萬事がまるで杓子定規
なので、早いお話が稽古の時間も立者次第となつて居りますが、是れも
早速改めたいものです、一體私などが斯ういふ口幅つたい事を申しま
すと、何だか生意氣のやうに思召す方も御座いませうが、芝居の繁昌を

圖るには先づ斯うもしたらば宜からうと思ふので御座います、夫れか
ら芝居の仕込金をもつと安くしやうとするには、是れもまる／＼工夫
がないではありませぬ、今日の習慣では社杯なり羽織なり帯なりを同
じ幕に出る時は格別一人一枚若しくは二枚位衣裳屋から借りる事
になつて居りますが、是れも同じ幕でなければ甲の役者の着たものを、
次の幕には紋杯を取替へて乙の役者が着るやうに致しますと、數多い
中では仕込金が餘程違ふので御座います、東京に居る中こそ、前の幕に
誰れ某れの着たものが着られるものか杯と申す人達もありますが、さ
う云ふ人達でも田舎へ出ると、さう／＼衣裳杯を澤山持つて行く譯に
は參りませぬから、色々工夫して一ツ物を遣つて居るので御座います、
夫れから今日では
大層小道具を奢る

やうに成りまして、此小道具に取られる金も大抵ではありませぬ、夫れと申すのが一切眞物を遣ふ様になつたからですが昔は茶碗にした所が張りボテの茶碗を遣つたもので御座います、假令張りボテでも夫れを眞物の様に見せるのが役者の腕の善いので、此方が安く付きますから、是等を改良したらば芝居の仕込も自然安くなるに違ひないと思ひます、芝居の仕込は安くなる茶屋の祝儀、食事の費用もなくなると思ひ事になりますと、お客様も極氣樂に御見物が出来、勘定で御座います、私は龜藏が徴兵から歸つて参りましたら、何れ何處かの芝居の部を持つ様になりませうが、さう致しますと

此改良芝居を遣つて見様

と思つて居ります、併し此改良をするには先づ歌舞伎座より外にないので、他座では出来ませぬ、と申すのが、他座では興行毎に幾分か此茶屋

から仕入金と申して金を出させますから、見物場所杯も茶屋の専横になつて、座の方の自由にはならない位で御座います、夫れから其座の大立者には給金の外に分を持たせるとか、又は株式組織ならば大株主として置きたいものです、入りは有らうが無からうが極めたけの給金さへ貰へば宜いと云ふやうな考へを持つ者があつては、座の不爲です、から座方と損益を共にすると云ふ方法にして置きたいもので御座います

(二) 中村芝翫の改良談

是れまで度々世間に芝居改良の説が起りまして、其種類から申しましても、色々様々の區別が御座います、一度も實行の運びに至らなかつたのは、まだ時期が夫れ程に進歩して居なかつたのであらうと存じます

す、時事新報社では日頃から芝居の事に御注意下さいますが、今度は又私共を初め内部のものに改良法をお尋ねになると云ふのは、誠に面白
いお考へで、私はまだ樂屋の者と寄つて相談をした事も御座いませぬ
から多少外の人々と意見の違ふ所もありませうが、マア大同小異だら
うと考へて居ります。

時間と脚本のこと

昔時と違ひまして世の中の進むに従ひ追々悠長に遊んで居るものが
少くなるのは當然のこととて、當節では芝居の爲めに一日暇を潰すのを、
皆様が惜しむ様になりました、夫れです。から開場時間は、夕刻から四時
間か、高長くつて五時間位が止まりで御座いませう、其うしますと、晝
間の内働いて夜芝居へ行つて見ると云ふ工合になります、又狂言も今
までの様に幕數計り多く遣りましても、其中には時間繋ぎ、又はホンの

筋を通すだけに態々一幕出したり何かして随分無駄な幕もないでは
ありませぬ、私の考へでは學者の方々に歴史物とか、史傳とか云ふ高尙
な狂言を書いて戴いて、それを脚色して舞臺に掛ける様にしたいと思
ひますが、夫れも唯今のやうに無駄な場を抜いて面白い所を一幕でも
二幕でも遣つて、跡は中幕物のやうな淨瑠璃でも遣れば、夫れで十分だ
らうと思ひます、中には、一幕や二幕では筋が通るまいと云ふお説もあ
りませうが、夫れには從來の番附と違つて、一寸した筋書を一冊宛お客
様に配るやうにしまして、其筋書さへ見れば、ハ、ア何年の何月何日の
出来事で誰が何うした所と云ふことが解る様にしたならば宜からうと
思ひます、今一ツ私の考へでは、引いた幕をお客様に見せて置くのは如
何にも面白くないので、僅か四時間か五時間で見物を満足させやうと
思ふには、幕間を早くするのは勿論ですが、尙ほ其上に樂屋の仕度の出

来る間長唄なり手品なり落語家なりを出して、少しも隙のない様にお客様の倦まない様に致したいのです。若し見たくも聞きたくもない人は、其間運動場に行つて遊んで居ると云ふ工合にしたらば、四時間でも今日の八九時間よりは、樂しめやうかと思ふので御座います。

お茶屋は廢止のこと

芝居を盛んに繁昌させるには、先づ第一にお茶屋を止めて貰ひたいのです。唯今の仕組では一人で一、二寸見物すると云ふことが出来ないのです。芝居へ行かうとするには、先づお茶屋へいつ何日は都合は何うかと思合せ、夫れからお茶屋の方で何日が宜しう御座いますから、お出でを願ふと申して來ます。その時には此方の都合が悪かつたり、又自分の都合は宜くつても、同伴の者に差支を生じたりしまして、大概の閑人でも自然之申になる勘定で御座ませう。若し是れも残らず椅子にしまして切

符で入れる様にしますと、例へば夕刻から主人が運動ながら一寸入つて見物するお家へお歸りになつて、今度の芝居は面白いから翌日にも行くが宜からうと云ふ、是れまでの様に何人連れを拵へなければ、一枱にならない。杯と云ふ面倒がありませぬから、妻君が子供に下女位を連れてサツサと出掛けると云ふ工合になつて、萬事が輕便になります。是れでなければ、將來芝居の繁昌は覺束ないので御座います。其うなると、又芝居の中で物を召上る入費も要らなくなりませう。芝居の場代だけで見られるのですが、唯今では芝居を見物するに、第一が茶屋の祝儀、第二が食物、第三が場代と云ふ工合で、川腎の場代が一番安いので御座います。此安い場代だけで女一人でも不都合なく見られるやうになれば、芝居は屹度繁昌するに違ひないと存じます。

芝居改良意見

(三) 市川染五郎の大氣焰

私のやうな青二才が斯んな事を申し上げては恐入りますが、お尋ねです
から考へて居るだけの事を申します、私は師匠について色々のお客様
方にお目に掛りまして、様々のお話を窺ひます内に、或る方から何でも
人間の思ふ事は、遣りやうで通らぬ事はないと云ふことを聞いて居り
ますから、自分の稼業に付ても氣の合つた連中と、より／＼相談をして
居る事が御座います、夫れを是れから申上げますが、チト長くなるのは
何うか御勘辨を願ひます、先づ第一は

芝居の構造のこと

ですが、花道は不必用だなど、云ふ説もありますが、是れは狂言の趣向
に依つては随分必用な場合が御座います、先づ忠臣藏四段目の返して、

由良之助が赤穂城を退散するとき、段々遠く道具が變るなどの時、又
は昨年の師匠の仁木杯といふ場合には、極必用ではないかと存じます、
尤も花道がなくなつても遣れと云へば遣れない事はないので、昔は花道
はお客様の通路の爲めに拵へたと申すことですが、其後何時となく役
者の通路となつたので御座いませう、是れは入用の時だけ拵へると云
ふことも出来ると申すのは、土間の真中から橋などの糶出になつた事
もあるのです、御座います、マア其んなに邪魔になるものでもありませぬ
から、其儘に致して置きまして、又廻舞臺は日本特有のものとして聞
いて居りますから、是れも是非保存して置きたいと存じて居ります

椅子三分座る所七分

お客様の席に付ては、末松さんの演劇改良談にもあつたと思ひますが、
まだ日本人が下駄を穿いて居る内は、椅子許りと云ふ譯には参ります

まい、私は三分椅子、七分座る所と云ふやうにしたらば、何うかと思ます
時間とお客の案内

興行時間は、當節忙しい世の中になつて參つたのですから、松島屋の意見と同様で、唯今のやうに九時間の興行でも、幕間が一時二十分も掛るやうでは、正味見物する處は五時間位よりないので、御座います、餘り興行時間と幕間が長い爲めに、物を食ふ、運動は附かない、餘計な金を遣ふと云ふ工合になるのですが、面白い處だけを四幕も演ずる事に致せば、御見物も倦まず物を食べる必用もないかと思はれます、夫れから樂屋で拵へをする時間は、十五分から二十分もあれば衣裳まで着て仕舞へますので、前幕の幕切りに出て居りまして、次の幕の板附幕の開くときに出まして、若し又手間の掛る拵への場合には、何か仕出でも出して置きますれば、幕間は十分長くつて二十分間もあれば宜しからうと存

します、其代り興行時間中には、樂屋へお客様を入れないう様にしなければ可けないので、御座います、さうなると、茶屋杯は餘計なもので、座の近所に馬車の置場、車の置場、お客の伴の控所等を拵へて置ささへすれば、お客は切符を買つて案内のボーイに連れられて、其切符の場へ行つて見ると云ふやうに、萬事輕便になるに違ひありません、此ボーイに馴染が出来まして案内料を餘計に遣るのは、これはお客様のお召です、致方もありません、併し夫れとても案内だけの事ですから、左のみ餘計遣る様にはなるまいかと考へられます、當節役者の給金は世間普通の生活の上から申しますと、チト取過ぎはしないかと思はれます、尤も師匠や菊五郎さんは長年夫れだけの苦心もして來た人で、固より致方も御座いませぬが、併し

最下等の役者の何十年振りを

居る爲めに

この社会と交際をする
その入費に當時貰ひます給金では引張り足りない位なので御座います、此見得と交際さへなければ給金も安くつて暮して行ける、芝居も安くなる、又

男地獄の悪名も附けられ

なくなるよと云ふ次第で、自然に芝居が高尙になるのみならず、此社会の人々にも興行毎に迷惑を掛けずに済む譯だらうと思ひます、夫れに男地獄などの名目を附けられるのですから、家庭の正しい所の御婦人方が、芝居がお嗜で、誰の藝風が宜い杯と仰しやいますと、何だか、そのお宅が不取締りでもあるかのやうに聞えるので、御座います、花柳社会の交際さへなくなれば、私共は百圓位の給金で暮しても行けますし、従つて

高位の方の席へも出られるのであらうと考へます、斯う申しますと

染五郎は口で生意氣なこと

を云つて隠れては何んな事をするか知れないと思召すかは知れませぬが、私は昨年从不圖思付きまして自分の車へは、自轉車用のアセチリン瓦斯を點けて居るので、御座います、何の爲めかと云ふに、彼の車は染五郎の車だなど、一目して解つて自然私の行先も解るやうにと考へたのですが、近頃は、大分眞似をする人がありますから、今度はランプの硝子の色を半分赤く半分青くでも致さうかと思案最中なので、御座います、夫れから内部の改良が肝腎で御座いますが、是れとても出抜けに何處の芝居も歐羅巴風にしろと云ふのではありませぬ

責めては日本の歌舞伎座

圓菊兩優の出で居る座だけでも、高等演劇と云ふものが置きたいので、

夫れは何らいふ仕組にするかとのお尋ねですが、夫れは此座へ出て居るものは多少平素の行を正しくして、如何なる高位のお方が見物にお出でになつても少しも恥かしくない様にしたいと云ふだけの事で御座います、私などが他座へ参りますと、是れでも出物の一ツ位はして立てられますが、矢張り何だ彼だと申して金が要りますから、給金は安かつても歌舞伎座に居ります方が割方なので、其上に老優の技藝が覺えられるので御座います。

外國には俳優學校と云ふもの

があるさうですが、私の考へでは日本の芝居は寫實が熟して今のやうな物が出来上つたのではないかと思ひます、夫れです。から子役の時分から此社會へ入つて居れば、自然にその型を覺えて大名の座るのは何うする、婦人の座るのは何うすると云ふやうに形が附くので御座います。

す唯残念なのは俳優平素の主義が一定して居ないこと、何もギツクリ、パツタリする許りがお芝居ではないので御座います、泣く所も義太夫の規則的でなしに遣りたいのですが、是れは五七人も賛成者があつて熱心に研究すれば、出来ないことはありませぬ、併しさうかと云つて餘り活歴許りで

古畫展覽會の繪卷物の人物

が動き出した様でも興味に乏しく、又餘り寫實々々で壯士芝居の様に遣りましても、第一其書生連が今日では段々舊劇化すといふ工合です。から、此邊の處を研究さへすれば別に

俳優學校の必用はありませぬ

唯々情けないのは今日までの俳優現に私共は技藝と學問とが雙方宜い工合に調和して居ないと云ふことで、是れは誠に残念で堪らないの

て御座います、夫れから芝居社會にツケと申しまして、舞臺で人の駈出して來る時とか、又は睨む時立廻りをする時などに上手の方で、タ叩きますのは、元々芝居が人形から出て來たものですから、人形時代に其勢ひを見せる爲めに叩いたのが習慣になつて、今日に傳つたので、御座います併し外國人杯がこのツケを見ますと、地面を歩くときにバタ／＼音がするので、すから

餘程不思議な感とを起す

だらうと思ひます、夫れから彼の側の御見物には何の位耳障りか知れませぬ、師匠が活歴を演ずる場合にはツケなしで立廻りを致しますが、其方が餘程凄味があつて善い様に思はれます

此ツケは早晚廢したい

もので御座います、夫れから外國では舞臺の前で囃子を遣るさうです

が、夫れも餘り面白い趣向ではありませぬ、矢張り其側に居る御見物に臺詞が聞えない様な事がありはしないかと思はれます、又日本のやうに舞臺の下手の黒御簾の中を根據地として居るのも餘り體裁の善いものではないので、是れは

無理な注文かは知れませぬが

「彼の三味線は隣にて……杯と云ふ時には、隣の方で弾いて貰ふと云ふ風に改良したいので御座います、其次は座の規則ですが、是れは歌舞伎座なり明治座なり、其座々に座の規則の様なものを拵へて置き、して役者が出勤の約束を取結ぶときに、其座の規則は堅く守ると云ふ事にして置きたいので、其中にも座主又は座頭、頭取などは常に出勤、俳優の舞臺の

勉強不勉強を見て賞罰

を正しくする様にしないでは可けないので御座います、當節では下廻りの者などは何うでも宜い杯と思つて、甚だしいのは舞臺で欠伸をする者さへあります、夫れでも唯師匠が樂屋で小言を云ふ位で何も制裁がありませぬ、是等は其座の属主即ち座主から嚴重に云ひ懲らすことに致し、又座主が善く出来たと思ふものは

次興行に給金を上げる。

とか、悪いものは解雇するとか云ふ様なことは、是非無くては成らない事かと存じます、夫れから芝居の習慣として

初日に出揃はせない

と云ふのは實に不都合千萬なので、元々いつ何日の何時開場と云ふことは前以て知れて、居りまして總濼ひまで致してゐるので、から、衣装假鬘、道具、杯も夫れまでに屹度間に合はせないと云ふ事はありませぬ、

若し夫れが間に合はなければ、揃ふまで初日を延ばして置くが宜しいので御座います、是に付てお話があります、先年片市さんが市村座へ座頭になつて出て居ります時に、初日の前日舞臺稽古と申してチャンと道具を飾らせて、此木戸は今少し下げて呉れとか、此井戸は此處へ据ゑて呉れ杯といつて直させ、又小道具はこま／＼した物杯もありますから、一通り遣つて見て稽古を致しました、唯假鬘は冠りさへすれば宜いのですから、冠る許りに致して置き、又顔は平生塗りつけて居りまして、何分間あれば出来ると云ふ事が解つて居りますから、顔も塗らず、衣裳は前に衣裳屋から持つて来たときに寸法も極める、直させる所は直してありませぬから、別に着て見る必用もありませぬ、唯大道具、小道具だけを遣つてお囃子を入れて稽古をした事がありました、が、彼は誠に宜いこととて、さう致して置きますと、初日からチャンと出揃ふのですから、

従つて客足の附くのも早いかと思ひます

狂言方と後見のこと

師匠は能くさう申して矢釜しく云ひますが、時代物などの時に狂言方が縞の着物を着て後ろを向いて木を打つのと、岩組の間などから後見が顔を出すなどは實に不見識で堪りませぬ、是等も矢張り座の規則の中へ書入れて置きたいので御座います

幕の間から覗くは失禮至極

前にも幕の事を申しましたが、是れも規則の中へ嚴重に入れて置きたいので、彼の幕を少し裂いて其處から御見物を覗くのは、實に失禮至極なので、早いお話が宅などへお客様がお出でになつたのを、下女が障子の破れから覗くのと同じことで御座います

師弟の關係は極く淺い

凡そ役者程弟子師匠の關係の淺いものはあるまいと思ひますと申すのが、役者の弟子になるのは唯其師匠から名前を貰ひ、又師匠に連れられて他座へ出勤すると云ふ事だけなので御座います、尤も名題以上になりませんと、其師匠例へば私が師匠の團十郎に、何役は何う致すのでせうと聞きますと、若し口で云つて解らない場合には立つても教へて呉れますが、下廻りの中は別に斯うと云つて稽古をする事はないので御座います、私は仕合せに親父が踊の師匠をして居りますから私の弟子だけは親父に無代で踊を教へて貰つて居ります、役者に踊の必用なことは今更の如く申上げないでも、御承知の通りで御座います、若し又俳優學校でも出来れば、獨立でも舞臺へ出られる様になりませう

(四) 尾上榮三郎の穩和説

芝居改良の事ですが、是れは親父菊五郎だの築地の伯父團十郎だのが出てをる間は私などがいくら兎や斯う思つても到底行へないことですが、此間も成駒屋の兄イさんと風呂場で話を致しまして、私の意見は成駒屋と全く同様なので御座います、芝居の筋書はその人に拵つた物を

學者方に書卸して貰ふ

とか、又は舊來の狂言でも其人物に倣つた物を十分に遣つて練習をしないで腕が上らないかと思ひます、初めは自分の力に餘るものでも練習次第で仕舞には持てる様になる道理なのですが、夫れも唯今の所では座方で

團菊顔合せのとき杯は

迎もわれゝに其う云ふ物は許して呉れませぬ、併し今度の歌舞伎座

では幸にも八重垣姫といふ大役を勤めますから、十分に遣つて見やうと思つて居ります、夫れから先づ改良をするには、何れ慈善會にでもして七日間位興行するのが捷徑で、その時には銘々練習の爲め、日頃から自分の遣りたいと思つて居る役を勤めて十分練習をして見たいと思ふので御座います、興行時間は

精々四時間か五時間位

を止まりとして晝夜二回なり、夜興行一回なりに致しまして慈善會の時のやうに切符を賣つて、其切符の等級に依てお客様を場所へ案内する様に致したいのです、其うすれば別に

お茶屋などの入費が

要らなくなりしますので、成駒屋も此間さうしたいと云つて居りました、が何れ其内には改良の手始めとして慈善演劇を遣つて、十分銘々の遣

りたゐもの又は體にゐるものを遣らうと思ひまして
内々相談をして居る

ので御座います其時にはわれ〜と同意見のものは銘々無給金で體
で部を持つやうに致したならば、屹度行へない事はなからうと思つて
居ります前にも申上げます通り、此夏には是非とも慈善會で改良芝居
の手始めを遣つて見やうと思つて居りますが、其一回だけは何うやら
斯うやらお茶屋の弊風を除いて遣ることも出来ませうが、二回三回と
續いて遣りますと、又々元の通りになるので、逆も實際に行ふのは困難
な仕事で御座います、全くわれ〜の意見通りに改良するには、今の歌
舞伎座始めその他の芝居などでは行へないことで、夫れと申すのが彼
の通りに

お茶屋が澤山ありまして

夫れ〜のお馴染のお客があるのですから、一回や二回の慈善會なら
ば規則通りにも行へませうが、引續いて開けると、矢張元通りにお茶屋
の方から別に幾等呉れとは申しませんが、お客の方で黙つて置いて
行きます、夫れを規則で御座いますからお返しすると、お客が折角遣ら
うと云ふのを返す扱とは失禮だと云はれるのですから、なか〜此改
良は六箇敷う御座います、マア之を實際に行ふには、改良の意見の合つ
た役者の五人なり十人なりへ
十萬圓位の資本を貸して
下さるお方がありませんと屹度行へるので御座います、其十萬圓の金は
決して無駄には遣はないので、芝居を一軒別に拵へまして
お茶屋の大きな(案内所)
を一軒置いて、其處へ帽子其他の物を預けるか又は棧敷を今少しく廣

くして後ろに帽子なり外套なりを掛ける所を拵へるか、唯今の場所に
した所が、棧敷の前にさう云ふ物入れる所を拵へまして、煙草酒其外の
飲食物は凡て運動場へ行つて飲み食ひする様に致したので、其飲食
所又は喫咽所には是れまでの

武田屋なり三州屋が居る

と云ふやうにして置きますれば、是れまでのお馴染のお客がお出でに
なつても、別に餘計の御散財をなさる事はなからうと思ひます、夫れか
ら今までの

平土間のお客様の頭の上

を茶屋の若衆が歩くのは、實に失禮千萬のことでは、是れは座の構造を直
すと同時に、この歩く道をズツと掘下げまして、若衆が立つてお客様の
座つて居るのと同じ位にしたいので、御座います、斯う云ふ風に改める

には何うしてもお金が要りますが、其金も

高利貸杯から借りては

迎も行立ちませぬが、是れは芝居の極好きなお方から、われ〜同意見
の役者が十名なり十五名なり

連名で拜借しまして

私共も體を元手に遣つたらば、僅かな内にお返しすることが出来るだ
らうと思ひます、是れは今直ぐに行へるといふ仕事では、御座いませぬ
が、芝居を食物屋に較べて見まして、唯今の所では品の善いより居
心の善い方が流行ると同じこと、幾等食物が旨くつても帳場や女中
に餘計に散財の掛る店よりか
手輕に居心の善い店が

流行る道理なので、御座います、マア私にした所で、彼處の家は食物は旨

いに違ひないが帳場と女中でいくら〜掛るから、夫れよりは寧ろ
祝儀の要らない西洋料理

の方へ足が向くのと同じことで、唯今のお芝居がマア其通りで御座い
ます、場代はいくら高い時でも五人詰で十圓以上のことはないのです
が食物祝儀の方が高く附きます、芝居は見たいが意外に金が掛るから
と云ふので、何うしても

お客の足が遠くなるの

です、何でもお客様の居心の善いやうにして、手輕に見せるやうに
致しませんでは、迎も此先芝居の隆盛を謀ることは難からうと思は
れます、斯う生意氣なことを申して

お茶屋さん達に抛られる

と困りますから、この邊の所に致して置きます

(五) 市川猿之助の守舊説

芝居改良に就てお尋ねですが、私はまだ是れと纏まつた考は持つて居
りませぬ、併し私が第一に改良したいと思ふのは

初日のまゝ附きです

是れは商人で申せば、前々から廣告を出して置いて、初日は店へ品物を
並べて開店したのと同様なので、御座いませう、夫れが其當日に商賣物
が揃はないと云ふのは、實に不都合千萬の譯で、其爲めに前に總凌ひま
でしてあるのですから、何うか初日でも不都合なしに出揃はせたいも
のだと思つて居るので、御座います、夫れからお客を取扱ふのは大切に
は違ひありません、是れは樂屋内の者の知つたことではないので、申
せば表方の責任で御座いませう、興行時間のことには就ては、是れは私

唯今の

九時間より短くては

唯今のお客様も満足はなさるまいと思ふのです。外國の芝居の事は能く存じませぬが、重に逸話のやうな物許りを遣つて居るやうですから、四時間か五時間位で事が足りもしませうが、日本の狂言のやうに長い物では、逆も其位の短かい時間では仕切れませぬと申して、其中を飛び飛びに遣りましては却て狂言の意味がお客様に通じないで、興味が薄くなりませぬかと思はれます。此時間の所は今の九時間より延ばすとも短かくしては、假令ひ面白い狂言があるにしても、夫れを十分遣つて退けることが出来ないかと思ふので御座います。

掛持は止める事にした

夫れから昔は猿若町に三座ありまして、この三座へ出勤する役者が一

丁目は誰れ、二丁目は誰れ、三丁目は誰れと極つて居りまして一年毎に交代したのですから、何處へ行かなければ誰は見られないと云ふ様になつて居たのですが、當節では此習慣も何時しか崩れたのみならず、此掛持の弊と云ふものは

例へば一番目に甲の座へ出勤して居ながら、乙の座の二番目を働く役者があると致しますと、甲の座では少しも長く此役者を引留めて置かうと致しますし、又乙の座では少しも早く引取らうと致します

其間にお客様を待せたり

又は舞臺が損在になつたりする缺點が生ずるので、此掛持は一切止めて昔のやうに歌舞伎座は誰れ、明治座は誰れ、又東京座は誰れと云ふ工合に極めて、一年毎に交代する様にしたならば宜しからうと存じます、又

樂屋の弊を直すには

役者の部屋を昔風に改めるのが、一番捷徑ではありますまいかと申すのが昔は役者の部屋が今日のやうに一間々々に壁襖障子などで仕切つてはなかつたので、尤も立者だけは仕切つてありましたが、其外は一人もありません、座頭の部屋などは座つて居て

樂屋中が一目に見える

やうに出来て居たものです、夫れですから大部屋の者などは、何うしても不行儀な真似をすることが出来なく、自然に樂屋の規律が正しかつたので御座います、其頃は部屋の中なかつた

座蒲團は敷かせなかつた

ものでした、或座頭が歳を経つて冷えてならないと云ふ所から、座主の許可を得て初めて座蒲團を敷いたので御座います、夫れが今日では

何んな者でも敷いて居る許りでなく、見得にして奢る様になつたのは困つたもので御座います

(六) 市川八百藏の強硬説

芝居の改良は私も大賛成なので、先づ第一に唯今の九時間は餘り長過ぎる様に思ひます、私の考では六時間として

正午から開けて六時に

打出すか、又は一時に開けて七時にでも打出すと云ふ様にしたならば、お客様は中で餘計なものを食べずに、運動場でお茶菓子とか、咖啡位を召上がれば宜しからうと存じます、夫れからお茶屋は無駄のやうに思はれます、斯う申すと、お茶屋さんに憎まれるかも知れませぬから、大きな聲では云はれませぬ

が芝居の入費よりお茶屋の祝儀、召上物などの方が遙に高く附きますから、最う一度今度の芝居を見に行きたいとか、又は此間己は交際で行つて見て面白かつたから

家内の者も見せに遣らう

と斯う思ひましても、餘計なものが附屬するのでツイ控目になる勘定なので、芝居の爲めにはいくら不利益だか知れないので御座います、夫れです、此茶屋と無駄な食物がなくなつて、ホンの場代だけになると、團十郎菊五郎の出る芝居でも多寡が知れて居るので御座います、この

お茶屋さんの不親切には

亡くなりました新藏が非常に憤つたことがあります、と申すのは、先年私と秀調、新藏、成駒屋などの夏の安芝居を興行しました時に

テんで彼んな顔觸れ

ではと馬鹿にして芝居の引札とも云ふべき肝腎の番附を思ふやうに客先へ配つて呉れませぬ、夫れが新藏の耳へ入つたので、彼アいふ氣性の男です、大層憤つたことが御座います、夫れから改良をしたいと思ふのは、役者の品位を今少し高めたいと云ふことで、今の役者は自分から品位を落して

謝問同様の眞似を

して居ります、その證據には幕の裂目からお客様を覗いて少しでも知つて居るお方がありますと、呼ばれもしないのにお辭儀をしに行つて何がしかの御祝儀を貰ふ

ことにのみ氣を配つて居るので御座います、若しお客様がお歸途に餘所へ一緒に連れて行かうとか、又はお辭儀をしに行かないでも祝儀を

遣らうと思召せば、先様から届けて下さいますので、是等は全く自分から品位を落すまで、御座います、夫れから何うも少し役に立つやうになると、役者が勝手に小劇場へ出掛けるには困ります、と申すのが幾等役に立つても、樂屋の弊として、順押しでなければ、役を振らぬものです、から、餘程間拍子の宜い時でなくつては、一寸眼に付く様な役は當りませぬので、是れに就て

面●白●い●お●話●が●あ●り●ま●す●が●

先年市村座がまだ元地にあるとき、師匠が大久保彦左衛門を勤めまして、團右衛門さんを頭に私が一番末で飛鳥山の花見の場で、或娘を執らへて酌をさせると云ふ筋の狂言、まだ其頃までは並んで臺詞を云ひますときは、上から順々に臺詞が渡つて来て、末に居るものは何時でも左様で御座る。

と云ふより外に臺詞はないのですが、其時には何う致したのか、末の方から云ふやうな書拔で御座いましたから、私が云ひますと、團右衛門さんが其臺詞は己が己順だから、己に云はせると申すのです、私はイヤ、夫れは可けない、芝居は夫れで宜いかも知らないが、是れが本當ならば何時も仕舞に居るものは、御座る、と云つて居る氣遣ひはない、物の云ひたい時は勝手に云ふではないかと斯う申しますと、師匠が夫れを聞いて居りまして、夫れは尤もなことだと云ふので、漸く

こ●の●弊●を●廢●し●た●の●で●

御座います、萬事斯ういふ風で頭が悶へて居るのですから、腕が出来ても思ふやうな役が附かない終には面白くないから、小劇場へも出ると云ふ工合になるので、御座います、小劇場へ出ると少しは用ひられて、大きな役も附く幅も利く所から、自然鈍帳廻りの役者になるのですが、扱

で藝の苦勞といふことを少しも知らず下廻り杯に對しても思遣りと思ふことがなく、無理な小言許りいふ様になりはしないかと思ふので御座います、お話が少しく前後致しますが、お茶屋は唯今の所で残らず潰すには及びますまい私の考へでは此お茶屋を大きなものにして一軒に纏めて夫れを株に致しますか、又は今までの中茶屋の男又はお茶屋の若衆などは

悉皆座に雇入れまして、座から日にいくらと云ふ日給を與へて、お客の案内をする様に致したいと思ひます、其うすれば、此人達は別にお客から祝儀を貰はないでも、暮らして行ける様になりませう、只今は手詰と申して

一日何がしかの檜錢

を座方へ納めるので御座いますから、お客から戴く祝儀が當てなので

御座います、夫れから當時の下廻りには、蜻蛉返りを旨く遣るものが割合に多くありませぬ、尤も當時の立廻りは餘り此蜻蛉返りが必要でもありませぬが、時代物になると必要なことが出来ますから、是れも樂屋の内部を改良すると共に下廻りの者は是非とも

蜻蛉返りを稽古する様に

致したいと思ひます、先年私が部屋着を着たまゝ風呂場へ行かうと致しますと、是非に體がだるう御座いますから、一寸蜻蛉返りを打つて見ました、すると猿之助が後から参りまして、是れも蜻蛉返りを打つて何うだ、昔時稽古をしたことは未だに忘れないものだ、二人で笑つて居りますと、夫れを又

師匠が部屋窓から覗き

まして己も今少し若ければ先立ちになつて、今の若者に稽古をして遣

るのだが、團十郎も蜻蛉返りの上手も、此年では出来ない、併し今の若者に蜻蛉の返れるものは少ないから、本當の稽古場を拵へて稽古をさせると

自分で砂を買ひ穴を掘らせて

下廻りのものに毎日稽古をさせました、が熟練と云ふものは怖ろしいもので、二芝居(五十日)の間に皆んな蜻蛉返りをして立てる様になり、また此蜻蛉返りの自分に出来る立者でなければ、下廻りの者に蜻蛉を返らせるにしても、まだ氣の入らない中に返らせなどして返る方が餘程難儀をするので御座います、是等も矢張り只今の役者が夫々の順序を踏んで出世をしないからで御座います

凡そ役者位團結力の

薄いものはないと思ひます、一座して居る中は、お互ひにまゐるで兄弟の

様に交際して居りますが、其一座が崩れると、最う行通ひでも致しませぬ、夫れから一座して居りまして、是れは斯うしやうと云ひますと、其場では何分宜しくと承諾して居ながら、陰へ廻つて兎や斯ういふ者が多う御座います、先年中この歌舞伎座に出勤して居りますものは、興行中に一回づ、皆んな揃つて飯を食ひに行く例で、何時も

私と成駒屋が先棒

で御座いました、が前にも申す通りな次第で、八百さん杯は宜い年をしながら、若者の先棒になる杯と陰で云ふものがありますし、中には私は義理ですから、一寸顔だけ出します杯と云ふものもあります、が私の考へでは是れは義理で遊びに行くのではない、マア大勢寄つて酒を呑んで遊んで居る中には、日頃面白くない間柄のものも、仕舞には打解けて互に睦み合ふやうになるので、是れが會合の目的なので御座います、此

十三日(明治三十五年二月)の打出し後も又々此會を再興して濱町の常盤へ参りましたが他座では

同じ市川の流を汲んで

居ります者でも最う升若さんとか何とか云ふ高嶋屋さんのお弟子さん杯になると、まるく知らない者が御座います、併し此商買はいつ何處で一座するか知れないのですから、一年に一度は總會を致したいと思つて居りますが、夫れも旨く纏まりませぬ、この事杯は實に譯のない話で大概の役者が一月は東京で芝居を致しますから、忘年會なり、新年會なりを催せば直ぐ一同揃ふのですが、夫れさへ行へないと云ふのは、如何にも嘆かましい次第で御座います

(七) 市村家橘の賛成説

芝居改良の意見ですか、此間お約束を致しましたが私だけは何うか御免を蒙らうと思ひます、と申すのが、此間或るお客からお前などはまだ彼ア云ふ事を云ふのは早いと注意されたのです、尤も八百藏さん位の年輩になれば人様も承知して下さいます、私などが申しますと、唯一口に生意氣だと云はれます、併し私も

芝居改良のことは大賛成

なので私が言はうと思つて居ることは、最ふ皆んな先へ云はれて仕舞ひましたから、改めて申上げた所が、前の人達と同様なことを繰返して云ふより外に仕方がありませぬ、併し彼れが實際に行へれば結構ですが、迎も今の所では言ふべくして行へない事が多からうと思ひます、私もお茶屋は止める

方に賛成なのですが、是れも強て止めませんが、此茶屋を株式にして

一軒に纏める方が便利かと思ひます、この芝居改良々々と申した所で、唯今のやうに

お茶屋が周囲にあつては

何うしても實行が覺束ないので、芝居を改良するにはお茶屋のない座を一軒拵へるのが一番捷徑だらうと存じます私は一生の中に一度

市村座を再興したい

と思つて居りますと申すのは御承知の通り、元伯父菊五郎が市村羽左衛門と名告つて太夫元をして居りましたが、其後親父先代家橋が譲受ける時分には非常に借財が嵩んで居りまして、夫れが爲め、到頭他人に譲るやうなことが出来したので、御座います私は一生の中には今の市村座を買戻すか、夫れとも別に市村座といふ芝居を一軒拵へるか、何方か致したいと思つて居りますが、さう致しますと自分の芝居ですから、

自分の思ふやうに改良して遣つて見たいと思つて居ります

跡は宜しく願ひます

最う此外に申すことは御座いませぬ跡の所は貴方の方で宜しいやうに願ひます

(八) 尾上菊三郎の憤慨説

芝居改良のことは私は大賛成なので、殊に此間から御連載になつて居ります、皆さんのお説の中の茶屋廢止といふことは、至極同感で御座います私の考へではお茶屋は

芝居の爲めには疫病

と同じことで、唯今の中に一時も早く療治を致しませぬと、段々に此悪習慣が腐れ込んで仕舞には何うにも斯うにも療治の仕様がないうやう

になりはせぬかと思ひます、先日も松島屋さん(市藏)のお説に見えまし
た通り、此お茶屋がお客を扱ふのはまるで

引手茶屋かボン引

のやうな工合で芝居の爲めにお客がお出でになるのを、何か自分達の
交際上呼びでもしたかの様に云つて居ります、併し芝居の休んで居る
ときを御覧なさい、誰れ一人行くお方はないで、御座いせんか、夫れ
から八百藏さんも申した通り我々などの芝居の時には番附を客先さ
へ配らない許りでもなく事に依ると

今度の芝居は詰りませぬ

杯と云つて客先きを觸れて廻るものがあります、其證據には先年夏芝
居で江島屋を遣りましたときにも、矢張り此傳で番附を配らないこと
があつて、夫れが井上さんの耳に入つたものですから、大層小言を云は

れたことが御座います、一體芝居の爲めに

今日を送つて居るお茶屋

ですから、若し芝居が悪いと思へば、尙更ら客先きを勸めて歩いて呉れ
るのが普通の人情ではないかと思はれます、夫れ許りでなく現にお客
を

追出す算段を致します

と云ふものは、當節は團十郎菊五郎の兩大將の體に依つて狂言を据ゑ
るものですから、序幕や大切にはこの兩大將が出ないで、何時も我々な
どが出て居ります、するとお客様が早くお出でになつても、未だ序幕が
開いた許りですから、御緩りなさいとか、又はハネ前になると

少しでも早くお客を歸して
跡形付をしやうと云ふ考へで、大切の幕などは最う詰りませぬから、込

まない中にお出掛けなさい杯と云ふのですが、縦令出来ても出来なくつても舞臺で一生懸命に遣つて居るものに對して、斯う云ふことを申すのは、實に不都合千萬な譯ではありますまいか、又芝居の爲めに今日を暮らして居る芝居茶屋其者の業體から考へましても、其んなこと云はれた義理ではなからうと思ひます、商賣上のことは暫く措きまし

この茶屋の亭主など

と云ふものは、別に客の送り迎ひをするでもなく、送り迎ひをするのは男衆又客の前へお禮に出るでもありません、まるで懐手をして居て、お客からは肝腎の場代よりも餘計の祝儀を貰ふのですから、段々鰻登りに贅澤になりまして平常柔かい着物を着て、夏になると東京は暑くつて可けない杯

と云つて湯治場へ出掛けるものがあります、是れと申すのも皆んな役者の骨折のお蔭でせう、夫れを今度の芝居は詰らない杯と云つて、番附を配らなかつたり、又は最う見るがものはありませぬ杯と云つて、役者が一生懸命に遣つて居る中にお客を追ひ立てると云ふのは、實に何といふ不都合なことで、御座いませう、夫れから

場代より祝儀が高い

と云ふのは、是より馬鹿氣たことではないので、併し實際に肝腎な場代よりも只遣る祝儀の方が高くなるのですから、今度の芝居は面白いから、最う一度行つて見たい、又は主人が交際上行つて見て面白かつたから、家内の者も見せに遣らうと思ふお方がありましても、茶屋の帳場の祝儀、男衆女中の祝儀が第一、其次が食物、夫れから場代といふ工合なので、餘り入費が嵩み過ぎますから、何方もツイ考へては控目になるので御

座いさす、是れが他の贅費を抜いて場代だけになりますと高が知れて居ります、此節は

宿屋などが此點に注意

致しまして、茶代不申受又は茶代御無用杯と書いて店先きへ出して居る家もありますが、其家は、大抵非常に繁昌して居ります、芝居も是れと同様、實際に

お茶屋廢止を斷行すれば

屹度繁昌するに相違ないと思ひます、散々お茶屋の悪口を申しました、が彼れを改良するには、お茶屋のない芝居を一軒拵へるのが一番の良策で御座います、と申すのが、是れまで芝居を拵へるときには

芝居茶屋一軒に付き幾等

と云ふ株で、其金を芝居建築費の中へ入れる習慣で御座いましたから、

何うしても此茶屋を潰すと云ふことが出来ませぬ、尤も唯今の

市村座杯は多少改良的

に田村さんが拵へまして茶屋を芝居の兩方に置き、始めは一軒に付て男衆が何人、女中が何人と極めてありまして、其茶屋へ行くと、案内料が十錢とか二十錢とか極つて居りましたから、別に多分の御散財をなさる方もなく、極氣輕に行かれたので御座います、が夫れも僅かな内、今日では普通のお茶屋になつて仕舞ひました、夫れから芝居改良をするには昔と違ひまして、世の中が段々忙がしくなるに連れて、無駄に一日芝居へ来て暮すと云ふ人が少なくなるのは、是れは分り切つたことで、御座います、昔は七ツ起きをして芝居を見に行つて、少し遠方のお方は歸途に鶏が啼いた

と申すことですが、其んな古い事は例にもなりませぬが、先年興行時間

が八時間と極つたときには、逆も夫れ許りの時間では仕切れない扱と
申しまして、警察面は八時間の届で其實十時間位遣て居つたことがあ
ります、當時は九時間限りでも多過ぎる様に思ひますが、左ればどて皆
さんのお説の如く、四時間に端折つては逆も今のお客様方が喰ひ足り
ますまいと思ひます、私の考へでは八百藏さんのお説の

六時間と云ふのが極宜い

所であらうと思はれます、左う致しますと、唯今の芝居の時間で敷へま
すと、此芝居目下の歌舞伎座が十時開場と申して、十時三十分には幕を開
けるのですが、夫れから一番目を遣り切つて中幕の二十四孝を二幕終
りますと五時になります、丁度六時間程なので、是れだけ御覧になれば、
先づ宜い加減ではないかと存じます、そこで之を

一時に開場致しますと

晩くも夕方七時には打出しとなるので、お客様は晝飯をお上りになつ
てからお出掛けになり、若しお腹がお空きになれば、中の運動場で菓子
なり餅なりをお上りになつて、夕飯はお宅にお歸りになつてから召上
るとも、又は途中でお奢りになるとも、是れは御勝手御座います、先
づさう云ふ勘定に相成ります、若し又夜芝居ならば五時に開場しまし
て、十一時頃に打出すことに致しますと、商賣のあるお方は十分にお稼
ぎになつて、夕飯を少し早目に召上つて

運動場と芝居へお出掛け

といふ工合で、是れも至極御便利かと思ひます、夫れから内部の改良は
何時でも出来ますが、何うか貴方々のお筆を以て見物の方も少しは改
良して戴きたいと思ふのは外でも、御座いませぬ御見物が役者の藝を
評しなすと、能く

彼の役は人にないと

頭から云はれますが是れには困切りますと申すのは我々はまだ未熟には相違ありませぬが早いお話が團十郎さんが十七八の娘を勤める、逆も十七八の娘に見える氣遣ひはないのですが、技藝上何うしても娘のやうに見えるのです、併し私などが由良之助を遣りますと、ア、菊三郎の由良之助か、人にない杯と一口に仰しやられて仕舞ひます、何うせ見ぬ昔の事を斯うだらうと、だらう考へて遣るので、それから頭から悪口を云はずに御覽になりまして、悪い所は悪いと云つて戴きたいので御座います、今の御見物は由良之助や家康は

團十郎見たやうな人

又權太などは、菊五郎見たやうな人と思召して居られるのですが、是れも改良して戴きたいものです、併し急な事には行きませうと思ふの

は、現に大日本の

帝國議會ですら、馬鹿だ

とか、何とか云ふ人があるのですから、金を出して遊びに来る芝居杯では、當分致方がないと斷念めて居ります、其次に内部の方では是非とも改良をしたたいのは、藝が出来ても出来ないでも夫れには構はず

席順で役を振ると云ふ習慣

で御座います、尤も名題役者は格別ですが、三階杯の下廻りは何時も斯ういふ工合に役を振られますから、駕籠屋はいつでも駕籠屋を勤め、假令又出世をした所で並び大名位のもので、別に目に立つ役を勤めることは出来ませぬ、夫れですから、其中に出来が善いとか、又は藝に身を入れて勤めて居るものがありまして、夫れを引抜いて次には一寸善い役を振ると云ふ、六箇敷く申せば奨励法と云ふものが少しも立つて居

りませぬ、何時でも一本棒引いたやうに

駕籠屋は駕籠屋

並び大名の位地に座る者は、座る者と極つて居るのですから、藝に凝ると云ふものが少しもありません、又凝つた所で夫れを見出して呉れる人もないので、御座います、是れが一體ならば

團十郎菊五郎の兩大將

を初め、會社の理事で樂屋の取締をして居る井上さん、杯が能く見届け、彼奴は勉強するとか、又は情けるとか云つて見て遣つて下さると、大層獎勵になるので、御座います、併し今の所では夫れもなく、又名題にする時などは唯

師匠が承知すれば宜い

ので、譬へて申せば名題になるだけの準備、諸方への配物、其外と、師匠か

らの許可さへ得ますれば、何時でもなれます、と申すのが、斯ういふ順序で、先づ師匠から梅助ならば、梅助を今度の芝居から名題にしたいと思ひます、何うでせうと、井上さんに相談を仕掛ける、すると井上さんが、梅助を名題にする……師匠がさう云ふなら、名題にするが宜いが、併し給金は元通りだからと云ふので

名義だけ名題で給金は

名題下同様なものが幾等も出来るので、御座います、人材登用は今日の場合實に大必要ではあります、が

名家の子孫だけは

舞臺の上は兎もあれ、樂屋では夫れだけの待遇をしたいものと思つて居ります、夫れから將來は是非とも

舊作者と文士の方々

には、親密な交際がして貰ひたいと思ひます、舊作者の筋書の外に文士の方々からも續々新脚本を出して戴いて其中で宜いものを舞臺に掛けたいので御座います、同時に表方も樂屋も是れまでと違つて狂言の選定其他に付ても今一層慎重にするのが肝要なので兎に角金方は雇主で御座いますから、其雇主に對して我儘を云ふのは間違ひ切つた話だらうと思ひますが、芝居内部には奥役と云ふものが居りまして、此人が役を納める時には

随分宜い加減なこと

を云つて其場を胡魔化したり、又他の役者の所へ行つても同じ様なことを云つて、何うやら其役を極める

此極めることを納める

と云ふのですから、大抵是れでもお察しが付くだらうと思ひます、夫れ

ですから、昔から芝居の忠義は假忠義と云ふことを申すので御座います

(九) 市川米藏の圓滿説

私は伯父左團次の差圖通りに萬事遣つて居りますから

別に不平もなければ

斯う改良して貰ひたいと云ふことも御座いませぬ、此座明治座はまるで内輪同士で芝居を遣つて居る様なもので御座います

(十) 市川權十郎の經濟説

大分芝居改良のことが時事新報に出て居るやうで御座います、が私なども疾うから此事を考へないでは御座いませぬ、此座の座主さん(守川)

にも話したことがありますが世の中が進んで来たのに比較致しますと芝居はまるで

元の處へ置いて行かれた

やうなもので唯進んだのは大道具が油繪掛つたのと其他に二三點改良の出来たいけなので樂屋杯と来たらまるで元の通りなので御座います、夫れから私は表掛りの改良が眞先きに遣りたいと申すのは

茶屋の改良は勿論のこと

表方仕切場出方其他どもの改良から小屋の改良が致したいので、樂屋の方はマア肝腎のお客に直接の關係が薄う御座いますから其方は後廻しにしても宜いので御座います

一 體警親應が解らない

と申すのは私は何歳以下の子供には芝居を見せない様にしたいと思

ふのです、其譯は餘り小さい腦の固まらない子供を、空氣の悪い芝居の中へ一日入れて置きまして運動もさせずに彼の狭い中へ入れて夫れから泣かないやうにと乳や食物を宛合つて欺し其上に芝居を見せるのですから悪いに違ひないのみならず、時には泣いて他の見物に迷惑を掛けることもあり、是れ杯も改良の第一かと思はれます、夫れから

芝居へ来て居る巡查さん

は人民保護の爲めに來て居るのではなく、一日芝居を見物して居るので御座います、其證據には一番混雜して、一番喧嘩などの出来さうな大向ふの方には一人も居りませんで、上等棧敷の一か又は下の正面に陣を取つて

舞臺許りを見てお居で

になります、併し芝居の脚本は開場前にチャンと警視廳の檢閲が受けてありますから、舞臺の方には別段眼を付けないでも宜しからうと思ひます、是れは三人お出でになれば、二人は大向ふの左右に椅子を置いて居て貰ひまして、一人は始終交代で下を見廻るやうに致したいので、彼の棧敷でも

一。間。幾。等。といふ金の取れる

所なので御座います、夫れから芝居は初日から出揃はせたいので、是れは今までの習慣として初日は半直段なのですが

税金でも點燈料でも役者の

給金其他の諸雜費までも半直段だから半額だけ仕拂ふと云ふ譯でもありませぬ、マア夫れだけ座の方が損をするので御座いますから、初日から出揃はせて普通の場代を取るやうにしたいと思ひます、私の考へ

では

役者の給金は高くない

ので、と申しますのは、役者が子供の時から一人前になるまでに、親達が踊、三味線、義太夫、其他種々の藝事又は世間への義理附合などに遣ひ捨てる金といふものはなかく、少ない事ではありませぬ、普通のお方が小学校から中學大學といふ學資よりも却て餘計掛る位なのです、から

少し位取つた所で高が
知れて居ります、夫れには役者は世間から見ますと、大層樂なやうで御座います、が初日が出てからは左程の事もありません、夫れまでの苦心と云ふものは、三度の食事も食べないやうなことが度々御座います、何にしる一役に就ても、其人の丁見は云ふまでもなく、持物、着類、頭、の先きから穿物までも考へるので、其上時に依りますと寒中でも水を浴る、

又は命掛の宙乗までも致すと云ふ許りでなく

貫つた金も半分はチリ金

に出で仕舞ひますから、マア貫つた金の半分か三分の一位しか自分の物にはなりません、夫れで普通の商人又は月給をお取りになる方と違ひ、一年の中に僅かしか稼げないので御座います、私は

素顔の寫眞は撮りませぬ

と申すのは狂言を致して居るときは、其役で撮るのですから致方もありませぬが、素顔は何だか

自分の男振りを自慢する

やうです、素顔の寫眞は素人になつてから寫さうと思つて居ります

(十二) 尾上松助の姑息説

芝居改良の事ですか、夫れは此間榮さん(榮三郎)の部屋でお目に掛つた時に榮さんから一寸聞きましたが

私杯は若いお方のツマで

舞臺を働いて居るのですから、お若い方々の宜しい様になされた方が宜しいので御座います、併し今までの

役者が一致をすると云ふ事

に乏しいのは困ります、私はマア夫等から改良したいと思ひますので、喩へば此處に店借り住居を致して居るものがあります、自分さへ我慢をすれば天井に少し位の煤が御座いまして、夫れを掃除して綺麗にする、と云ふこともなく、差配人から矢筈敷く云はるれば他へ引越す

までのこととて、若し一人で此處を斯う改めないでは可けない杯と一生懸命に掃除を致しますと、却つてあべこべに

隣り近所から小言を

云はれると同じ様な譯で御座います、夫れよりは寧ろ其家、イヤ其座が自分の思ふやうに行きませぬ時には、他の座へ引越して行くのが何よりの捷徑で、マア今までの役者はさう云ふ心意氣ですから、肝腎の一致をすることが何うも六箇敷いので御座います、併し當時の所では難有いことに斯う樂をして居りましても、極つた物だけは頂戴が出来るのですが、今に

金主をする人がなくなり

はせぬかと思はれます、と云ふのは昔からの仕來りて芝居を開けるには先づ第一に幾等と云ふ大金を其處へ投げ出すので御座います、が夫

れも宜いとき許りはないので、損をする様なことが度々御座いましては、結局お仕打(金方)の方も手をお引きになるのは知れて居ります、其跡から又々お仕打が出来れば結構ですが、若しな場合には役者も遊んで居られませぬから、自分達の體を部にして芝居を開けるやうになるだらうと思ひます、そこで自然に改良といふことが出来ますので、自分の部を持つ芝居ならば

自○分○の○世○帯○も○同○様○

なので、すから、一生懸命になつて舞臺も勤めますし、今でも惰けはしませぬが、早いお話が、此黒の羽織も同じ幕に出ないときは、借合ふと云ふ様に致しまして、萬事經濟上のことを考へて儉約しく致しますから、芝居も次第に安く見られる様になつて、お客様も御便利かと思はれます、何しろ役者が

團結力に乏しい證據

には、此一座(歌舞伎座)が千秋樂になりますと、直ぐ其儘他の座へ行つて芝居をすると云ふことはなく、皆散々バラバラに崩れて仕舞ふので御座います、御若い方は夫れ〳〵行先きがありまますから宜いのですが私杯は何時も取殘される。

方なので、夫れも無理に遣つて呉れと云つたらば遣つても呉れませうが、さうも行きませぬと云ふのは、自分是我慢をするとしても遣つて居る男衆杯には座の方から手當を出さなければなりませぬから、そこで何時も取殘されと云ふ姿になるので御座います、私杯は一月や二月遊んでも構ひませぬが、下廻りの人達には随分可愛相なことがありまます、是れなども役者社會の習慣が悪いからと思つて居ります、興行時間のことですか。

是れは唯今の九時間より少ないのは宜しう御座います、夫れより長くつてはお忙がしい方杯は御見物が出來まますまい、併し唯今の狂言を其儘遣りましては何うも其位御覽に入れないうではお解りになるまいかと思ひます、若し短くつてお客様に筋が通るやうな狂言が出來れば、此上もないことですが、夫れには

文士方と作者と和合

致しませぬと、今度の二番目(奴胤の狂言)の様なマヅの工合になるので、折角お書きになつたのですから、狂言方も十分に手を入れて役者も遣り宜く、見た眼も面白くした方が、お仕打(金方)も役者もお書きになつた方も三方四方の都合が宜しくなるので御座います、何だか其處の工合が旨く行かなかつたのは惜しい事で、御座います、夫れから今一つ改めたいのはお仕打と

役者と利害を共にする事

で是れまでの様に役者は入り有つても無くつても極めたけの給金を貰へると云ふ丁見で働かないで若し其芝居に入りがなければお仕打も損役者も損をすると云ふ様にしたらば、一生懸命に働くだらうと思ひます、夫れにしても

今度の芝居などが肝腎

なので、最う師匠なども彼アいふ體になつたのですから、假令全快した所が暑寒の芝居には一幕か二幕位しか出られませぬ、何うしてもお若い方が一生懸命にお成りになる時なので、そこで此改良のお話も起つたので、御座いませうが、お話の通りになれば誠に結構で、此上もないこととて御座います

(十二) 市川女寅中庸説

芝居改良に付きましては、此間からお話を致したいと思つて居りませぬが、私が折角考へて置いたことは、最う大體皆様に仰しやられて仕舞ひませしたから、別に際立つて申上げること御座いませぬ、私の考へは、全く藤間(染五郎)橋尾(八百藏)さん、杯と同様なのですが、先づお茶屋を廢して

本當の改良芝居を遣りますには、皆様も仰しやる通り、何うしても別に一軒お茶屋なしの芝居を建てるより宜い策はありませぬ、夫れも出抜けにさう云ふ小屋を拵へて、初めから大仕掛に遣りませした所で、旨く行か何うかは保證が出来ませぬから、先づ手初めに小屋を借りて、試験的に興行がして

見たいので、夫れも別に餘計に金の要る譯は御座いませぬ、同じ意見の者だけが體で部を持つて遣ふことにすれば、左程に仕込金も要らないので、夫れから年を経つた方(片市松助)を顧問に置いて一ツ改良芝居を遣つて見せして、夫れで工合が宜ければ皆様の仰しやる通りに致したら宜からうと思ひます、夫れにしても私はお客様の方へも願ひたいところがあるのです、是れまでのお客様は見ない先きから、女寅が彼ンな重い役をする、人を馬鹿にして居やがる、杯と仰しやるお方もありませすが、何うかさう云はずに、今の若い奴は感心に勉強する、可愛相だから見に行つて遣れと云ふやうな

お客様に義侠心が

なくては、誠に頼み少なう御座います、是れは貴方々のお筆をお借り申して、お客様の方も改めて戴きたいので御座います、夫れから時間の所

は

九時間がセキの山

なので、と申すのは一日の中で見物を呼ぶといふ幕は一幕か二幕位しかありませぬ、跡は時間繋ぎと筋を通すだけのことで、マアお忙がしいお客様を狭い苦しい所へ入れて置く様なもので御座います、併し改良した曉には筋の通つた書物の中へ時代物を一幕位入れるやうにしたいので、將來の世の中は何うしても

活歴物の上品なもの

でなくては可けまいかと思はれますが、夫れも文士の方々に書いて戴いて、夫れを十分研究(我々のは人様に聞くのでして其頃の着類、持物、髪飾りまでも取調べた上で舞臺に掛けたならば如何なる立派なお方がお出でになつても恥かしくない様に出來やうかと思ひます、夫れを遣

るには又

役者の方も品行を正しく

致しませんが、如何に舞臺で許り鹿爪らしい事を云つて居りましても、平常の行ひが駄目では、第一御見物が承知をなさるまいと思ひます、近頃各座の

座主が寄合をするさう

ですが、役者の方でも時々寄合をして風儀の悪い所だの、又は是れから先きの事などに付て互に打合を致したいと思つて居りますが、此座(歌舞伎座)だけの者は纏まらず、他座へ出勤して居る人々はなかく六箇敷いので御座います、一體役者にも一定の規約と云ふものがあるべき筈ではないかと思ひます、普大阪では女形許りが寄合をした

事があるさうですが、夫れは私の知らない時分のこととて、一體女役と云ふものは詰らない者で、自分よりも自分の下の者の女房又は情婦などになれば、藥屋では上に居つても舞臺では何處までも其人の世話をし、て遣らなければなりませぬ、夫れが爲め女形の寄合といふものが出来たさうですが、右の次第ですから、今後の所女形で斯うといふ人は少ない様で御座います

芝居社會には師匠に依つて役を振るといふ弊習がありますが、是れも芝居改良と共に是非改めたいので御座います、この事は藤間(染五郎)さんの奨励法(橋尾八百藏)さんの門閥(廢止)の中にも見えました通り、團十郎とか菊五郎とかの直弟子は、狂言方の方でも其師匠の顔に對して夫れ相當の役を附けるので、若し又役を振らない時には、其師匠から家の誰の役はもう少し見て遣つて呉れと云はれますから、夫れが怖いのか、

又は團十郎菊五郎といふ

兩大将にオベツカを

するのにか多少眼に立つ役も附きますが私共の弟子などは實に可愛想なもので師匠に夫れだけの権力が御座いませぬから舞臺へ出ましても

何時も視の代りに並んで

居るので御座います尤も歌舞伎座などへ出て居りますと團十郎菊五郎といふ兩名優の藝を毎日見て居りますから修業になると云ふかも知れませぬが唯見て居るだけで上手になる筈はありませぬ見上みあに多少は遣つて見ないでは修業にならないかと思ひます尤も初めから大立者の役を遣るのでありませぬマア私などの所へ弟子になりたいと云つて來る者がありませぬと初めは夫れく意見もして遣ります

が

達て役者になりたいと云ふ

ものは是非なく弟子に致します此人達は芝居の好きな餘り役者になつて身を立てやうと思ふので御座います夫れを二年も三年も口も利かずに舞臺へ並ばせられては大概のものが厭になつて遂には

小劇場へ墮落して仕舞ひ

ますさう致しますと少しは給金も餘計取れるのみならず一寸眼に附く役もさせて呉れるので何うしても墮落します此鈍帳芝居と云ふ奴は怖いものなしで御座いますから遂には藝に臭味が附いて

一生を踏み迷ふやうに

なるので御座います是等は座頭お仕打狂言方などが始終御覽になつて直弟子又弟子を問はず少しでも役に立つて舞臺に熱心なものはチ

ヤンと目當を付けて、次狂言には少しく眼鼻の開いた役を振るやうに致しますと自然勵みが付て勉強する様になるだらうと考へます、夫れからお話間違ひますが

真女形は東京許りなので

大阪の役者などは女許り遣るものが御座いませぬ、と云ふのは前にも申上げた通り女形は詰らないと云ふもので皆んな立役になつて其立役から加役で女形をするので御座います、真女形は東京と極つて居るのですが矢張り今の東京役者には真女形が真に少なう御座います、のみならず將來この人がと思ふものは中二階女形の大部屋にもホんに算へる程しかありませぬ、夫れから女形と兩方を遣つて居りますもので、兩方宜いと思ふものは師匠團十郎を除いて唯今の所では皆無と云つても宜い位で、是れも改良と共に何うにか方法を設けませぬと

今に女形が種切れになる

だらうと思はれます、夫れから前にも一寸申上げましたが、今後の狂言は何うしても高尚な物の方になるだらうと思ひます、其證據には元は女形の泣くのは

ハ、ハ、ハ、ア、と聲を出し

て泣いたものですが、今の御見物は夫れでは悲しく感じませぬ、何でも理詰めで泣かせる様な藝風にしなければ可けないのですから、舞臺の遣方も昔とは餘程變つて參つたので御座います

芝居改良終

1-292

明治三十五年九月十五日印刷
明治三十五年九月二十日發行

芝居改頁

定價金拾五錢

不許複製

發行兼印刷者

金港堂書籍株式會社
東京市日本橋區本町三丁目十七番地

右社長

代表者

原亮一郎

東京市下谷區龍泉寺町四百十四番地

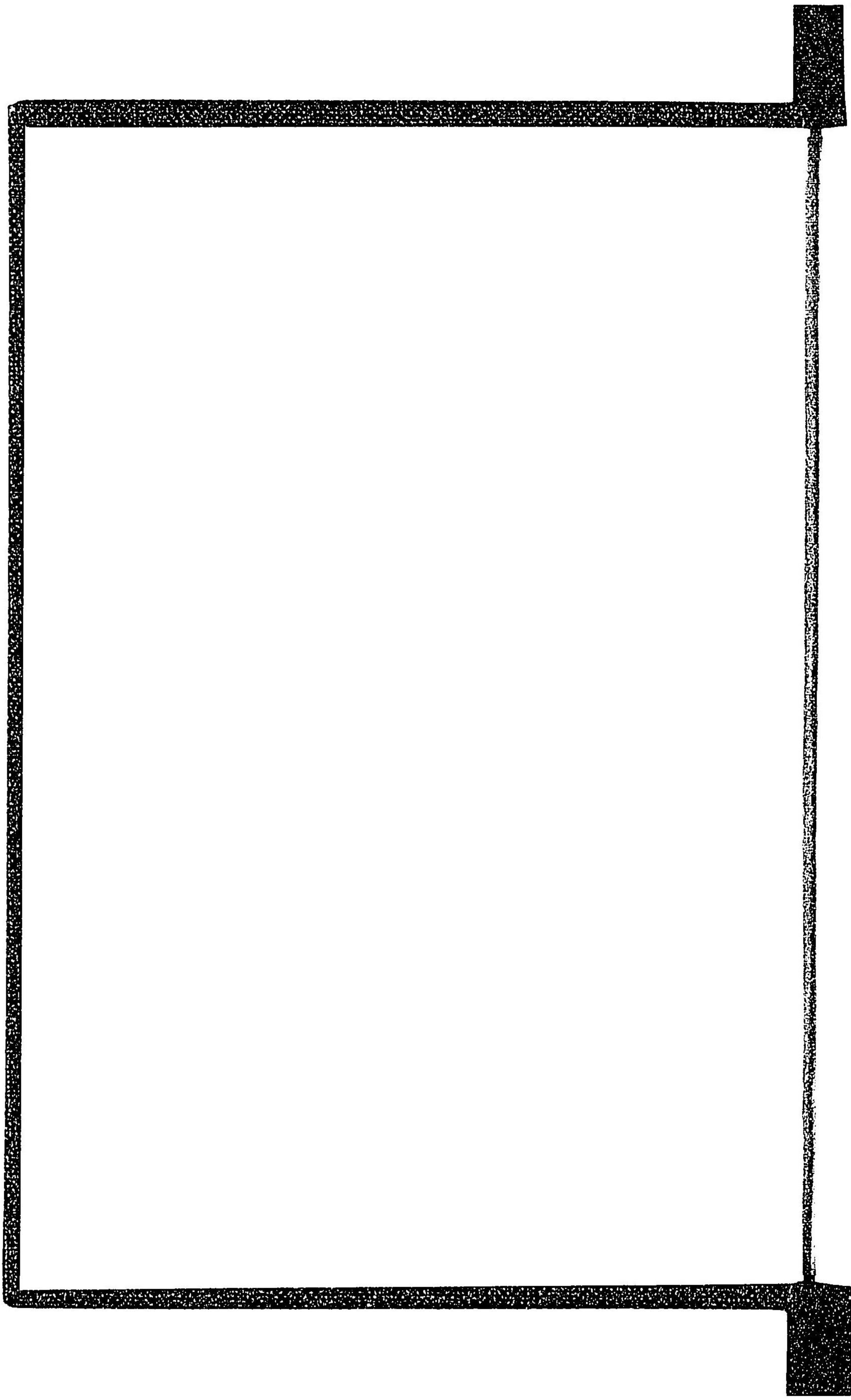
印刷所

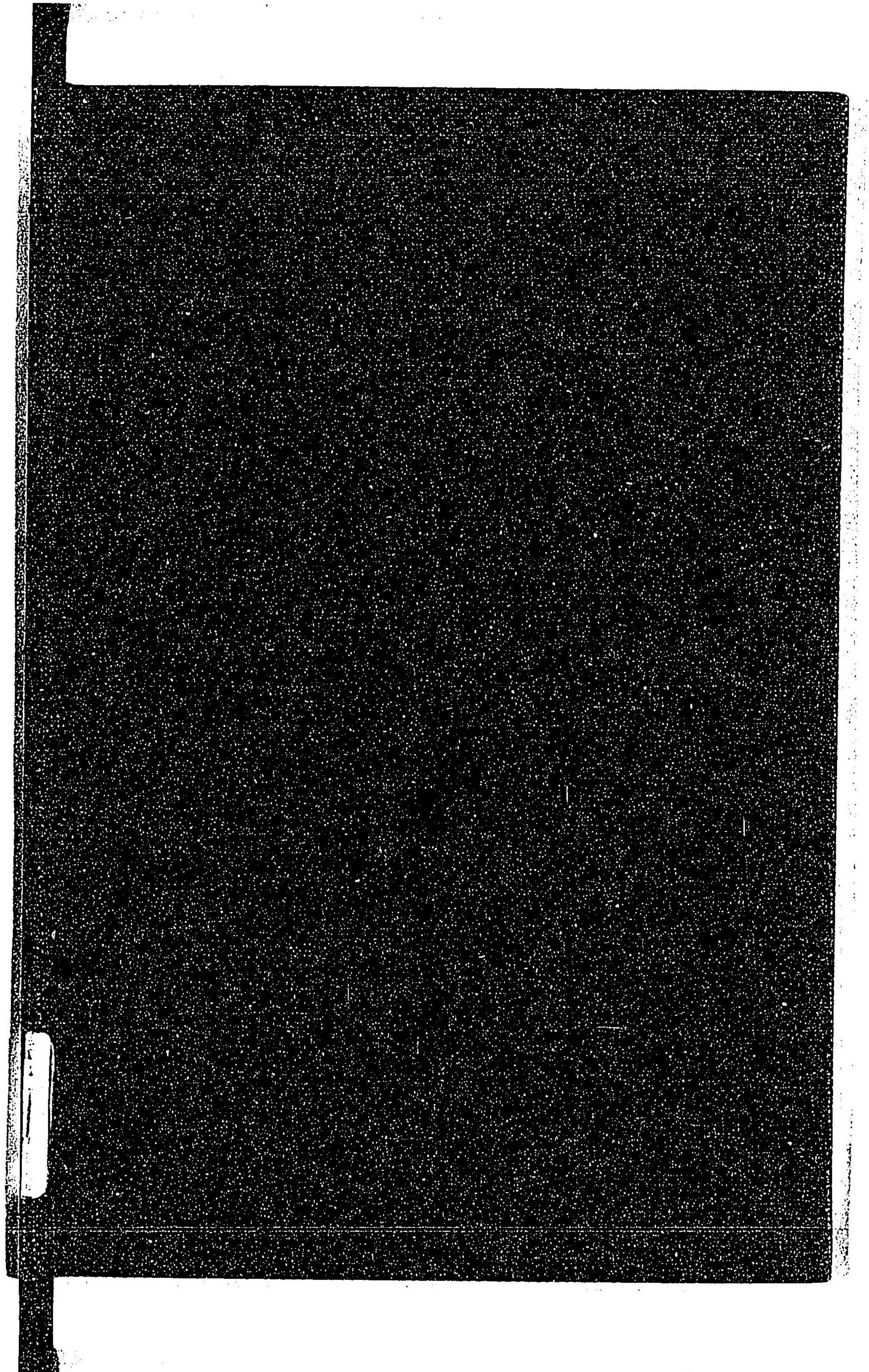
帝國印刷株式會社

東京市京橋區染地三丁目十五番地

賣捌所

各府縣特約販賣所





82
517

074832-000-9

82-517

芝居改良

時事新報社/編

M35

CEK-0176



